

市長
コラム

てっちゃんの ひとりごと

このコーナーでは、小林哲也市長が日々感じている思いや出来事などを隔月連載でお伝えしています。

数年前、80過ぎの母が、誕生日に孫からプレゼントされたタブレットを前に、うれしさとともに困ったような複雑な表情で「私には無理。どう使っていいかわからない。」ともらしました。

そこから母のDX（デジタルトランスフォーメーション）がスタートしました。第一段階は写真の撮り方から。その後、LINEアプリを入れて、孫たちに教わりながら文章でのコミュニケーションが始まります。まずは文字探しからで決して順調とは言えませんでした。どうにか近況報告ができるようになると、次は写真の交換が始まります。ある孫は、毎日ひ孫の写真や動画を送ってきました。すると、遠方に住むひ



孫の成長を毎日見ることが母の楽しみの一つとなっていく。夕食時には「今日はひ孫ちゃん、でんぐり返しができるようになってニコニコなのよ。」「今日は鉄棒につかまれて自慢そうな顔してたの。」と、母まで自慢そうな顔をして話してきます。私は、これもデジタルが作る一つの楽しみなのかなと思っています。

私は公約に「スマートシティの推進」を掲げました。それにはスマホやタブレットが欠かせません。「スマホは縁遠いもの」と思っている方もたくさんいらっしゃると思いますが、母にとってそうであったように、交流を促し、暮らしを便利にし、時には笑顔をつくるツールでもあります。

そこで、スマホに関心のある高齢者の皆さんを対象に、市からスマホをお貸しできないかと検討しています。気軽に体験していただくことで、スマホデビューのきっかけとなればと思っています。そのほかにも市では電子地域通貨や、オンラインで庁舎間の窓口をつなぐ対面相談の実施などをはじめとしたDXに挑戦しています。これからも「デジタルを活用したまちづくり」を進めていきますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

